



# 赤いす たのしみは 標り町

第三十五弾 よっちゃん、松原へようお帰り編  
あの戦争が終わって、  
50年近くが経とうとしている。  
空襲警報や灯火管制という言葉も、

疎開という言葉も忘れられようとしている。  
だが、戦争の時代を子供として生きた世代には、  
いつまでも、その傷跡が残っている。



〔写真右〕万博の年にこの地に本社を移した。当時はまだ、堀川通の交通量も少なかった。  
〔写真中〕看板にも、どこか懐かしい面影が。  
〔写真左〕写真集を繰るとき、平井氏の表情はほころぶ。



# 未だ懐かしい

西本願寺の正面に建つ京漬物・西利の本社ビルには、挑戦的な面持ちがある。門徒一千万を数える巨大な伽藍を前にして、一歩もひけをとらず、静かに対峙する社屋。現社長の平井義久さんの風骨を刻んだ容観にも、その片鱗は見えてとれる。ビルのでっぺん近く、応接室の受付には1枚の額が掛かっている。

「嵐かけん」

古今東西の名言・名句を東にしても、この簡潔さには適わない。

「折角お越しやけど、京都にはわたしの「すいば」はおませんな。幼稚園を中退して、家で近江舞子へ疎開してたんです。戻ってきたのは昭和27年で、もう中学2年ですわな。公立の中学が転入させてくれへんのでいやいや平安中学に入りました」

日本一の漬物屋であった戦前の西利に「権奉公」した父上が、昭和15年に独立し、松原西洞院に出していた店舗には、戦後のどきどきに乗じて、他人が住み着いていた。よっちゃんと呼ばれていた平井氏の一家は西洞院通をまたぎ、堀川通に近い一角に居をすえる。

堀川通はただ広いだけの、舗装もされてへん通りでね。川は暗渠やなかつたけど、上のほうから染色で染まった水が流れてくるので、とても遊べるような場所やなかつた。川によって赤や黄色、紫の水が流れるんですわ。近江舞子のように、自然のなかで遊ぶちゆうことは、考えられへんかったね」

小学校時代は、都会の子供だからと、今の堀園子女のような扱いを受け（もちろんすぐに大荷カブは奪ったけれど）、戻ってきたらきたで、手鏡きのややこしさから、地域の中学は受け入れてくれない。そのうえ、幼稚園の遊び仲間とは、学区もちがっているし、顔を見てもそれとはわからない。8年の歳月は子供には長すぎた。ようやく京都に落ち着いてからも、夏休みは近江舞子に帰りっぱなしだったよっちゃん。しかし、町には町の遊び方がある。一まわりほど年のちがう弟が通う小学校の裏手は、恰好の空き地。よっちゃんは、幼なじみとはまた別の顔触れを平い始めた。土管で遊んだり、野球をしたり、キャウムの包み紙でどんばを捕る技を仲間教えたりのスクール・デイズである。

空き地には紙芝居もやって来た。近江舞子の雄松



〔写真右〕タイガーの店主、山本さんと早速出会う。「おとうちゃんは元気かいな？」  
「まだまだ達者にしてる」  
〔写真中〕境内ではめんこやラムネ玉のピー玉で遊んだ。  
〔写真左〕五條天神は、八百屋を囲むように建つ古いお社だ。「おお、社長久しぶり。どないしてはったん？」



細い通りに、食べ物屋や雑貨屋  
化粧品店などが立ち並ぶ。

松原京極商店街は、  
戦前は京都でも指折り数えるような、繁華な商店街だった。  
古い店舗が、歴史を物語る。



洋食の店。吉長亭の白樺はカレーライス。

崎からボンボン蒸気で渡った「しらいけまつり」の  
見せ物小屋や居合抜きには及びもつかなかったが、  
その代わりに町は、毎日がお祭でもある。日本映画  
が全盛期を迎えた頃、中学生のよっちゃんも、試験  
幅日には新京極の宝座や都館に出入りするのが習慣  
となった。

「何を見たか、まではよう覚えてへんけどね。タ  
ーザンとかそんななんか。それよりも、ともかく中  
学の試験が簡単でね。これではあかんと思うたんで  
しような。何人かと語らって、堀川高校を受験する  
ことになりました。中学では「落ちても知らんぞ、行  
くとこなくなるぞ」と言われましたけどね」

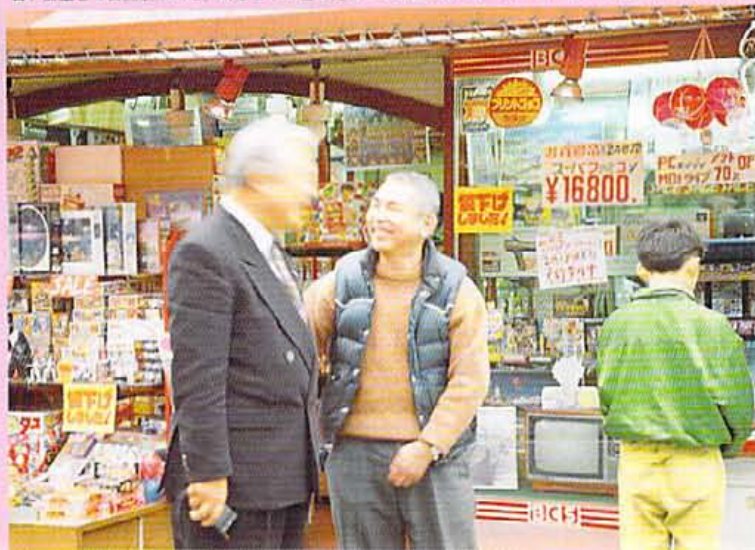
無事に堀川高校に入学したよっちゃんの、次の目  
標は当然京大だった。だが、真摯なその目標は、父  
親から猛烈な反対を受けてしまう。なまじ学問が身  
についたら、折角のれんを息子が継いでくれなく  
なる。と父上は考えたらしい。やむなく同志社を受  
験したよっちゃんに、父親は入学金の支払いさえ拒  
絶する。

「たいへんな騒ぎでね。KBSの『嵐かけん一代』  
でも放映されましたけど、35歳で結婚した父親は、  
何がなんでも自分の身体が利くうちに、跡を継がせ  
ようと思ったんでしよう。親戚の連中に押さえ込まれ  
るようになって、商売を始めました」

これよりすこし後、昭和37年には山口曜氏の「江



古い店主とは新顔馴染みだ。おもちゃの近江屋さんの2階には、アール・ヌーボーな窓が光っている。





西利も、昔はちようどこんな店先で、漬物を計り売りしていたのだ。



土曜日の午後。買い物客は、近所のお馴染みさんばかりだ。



おみやげに、と包んでもらった「あんもち」は、日々のお茶菓子によい適度な甘味。

# 未だ

分利満氏の優雅な生活」が直木賞を受賞する。平均的な日本人が、サラリーマンにあこがれた時代だった。とにかく字間だけは身につけて、店を継ぐ継がないは大学へ行ってから決めたい、と若き平井氏が考えていたのも当然だろう。

「そんなんで、松原通も京都も、わたしにとって「遊ぶ」町やうて「商売する」町になりました。父親の後に続いて、京都中を歩いてまわられた。最初のうちは商売がいやで、やんちゃもしたけど、やっぱり生来負けず嫌いなんやろね。20歳のときに「思うようにさせてくれるんやったら」跡を継いでもええ」と、思い始めたんですわ」

実際に商売をすべて任せられたのは26歳のころである。大学へ入っていたら、もしかしたら継がなかったかもしれない京漬物の西利を、父親と力を合わせて、大企業に成し遂げた、平井氏の活躍ぶりについては、世の人のよく知るところである。

京都の「この前のいくさ」が鳥羽伏見の戦いやなんて、言い始めたのは一体誰や。言い回しとしては、面白いかもしれないけれど、戦争で分断された故郷をもつ人間もいて、強制疎開で堀川通の幅は1倍以上にも広がったそう。元々の通りは、今では片側の歩道になっている。町並みがひとつ、まるまる潰されてしまったのだ。代々そこに住みついていた人間にとっても、あの戦争はなかったと、ウイットに富む現代人は言うのだから。



(写真右) 食器やインテリア小物を扱う定次の店主は、第3世代。今では商店街の会長をしている。  
(写真中「ここらへんまでが、店やったんや。京都の典型的な町家だね」)  
(写真左) 亀山のおばあちゃんは、社長の母上と同世代。商店街を抜けてこの店の前まで来ると、もう家に帰ったも同然。



# 京ごころ

昔気質が一樽一樽ゆるがせにせぬ、京のすぐきの味わい深さ。



すぐきは冬の季節である。加茂田で栽培されたすぐきを、独特の天祥漬けで樽に仕込み、室に入れる作業が行われるのは、鶴川にユリカモメが舞いはじめ、井戸水がぬるむ12月。霜がおりた冬ほど美味しいというだけに、仕込みの苦労がしのばれる。

れには、すぐきだけの天祥漬けという方法が用いられる。長き器『ほどの丸太の一方の端を固定し、もう一方の先に重さ10kgほどの重石を3つほどぶらさげ、樽の蓋を押しさえる。着にかかると重石は、重石の十倍ほどになる。テコの原理を応用した先人の知恵である。賀茂の農家の軒先には、必ず天祥場があったという。

代以降、醸酵工程は本炭や電気を熱源として室内を40度を保つ『室』で行われるようになった。漬け込み期間が短くなるとともに、品質も安定した。現在では、仕込みから樽出しまで約1か月。すぐきは冬の味覚の代表となり、多くの人々の食膳にのぼるようになったのだ。



京・上賀茂 なり田 京都市北区上賀茂山本町三十五番地  
電話(075)721-1567  
FAX(075)781-5956  
営業10:00AM-7:00PM  
水曜休



小学校の裏の道からは、堀川警察がよく見える。ここらは、全部空き地だった。硬式の庭球で野球をすると、球が堀川によく転げ込んだ。日本中に、そんな空き地があったのだ。



思い出は尽きない。今はどちらもガレージとなっている軒の家の跡で。

「ここらへんまでが店やったんや。京都の典型的な町家だね。次が事務所で、勝手と座敷があって、ここらが井戸。ここは前栽。ぼくらは2階で寝起きしとったなあ。向かいの坊主は京大へ行きよったんや。うちの町内は優秀でね」

目測するように腕を広げる平井氏のまわりに、町の人々が次々に声をかけにやってくる。久々に見かける定次の店主を相手に、「そーいや街頭テレビ代わりになってた家の子やな、あんたは」と、思いがけない昔の話が飛び出す。テレビのなかつた時代、奥の間でプロレス観戦をさせてくれた気のいいお宅だった。いつも、おけそくやあんもちを買いに走った相棒子の亀山のおばあちゃんは、氏の亡き母とほぼ同年輩。

「社長、ようお帰り」  
すいははない、と言いつつ切ったよっちゃんだが、たしかにこの場所、みんなにすかれて育つたのだ。

文／大音 美弥子  
写真／大田メグミ

（プロフィール）  
平井義久  
赤つけもの西料代表取締役。野球チームではセカンドを守っていた。プロ野球では、別当・藤村時代からの阪神ファン。現在の趣味は写真。外国の街角風景をコンダクターで巧みに切り取る昭和十五年生まれ。



外国の風景写真が、平井社長の現在の趣味である。この作品は、パリで撮った「窓」。

